

1. 件名:「日本原子力研究開発機構の埋設事業実施計画の変更に関する面談」

2. 日時:令和元年12月17日(火) 17:30~18:20

3. 場所:原子力規制庁10階南会議室

4. 出席者

原子力規制庁原子力規制部審査グループ研究炉等審査部門

前田安全規制調整官、島村主任安全審査官、青木技術研究調査官、中本係員
日本原子力研究開発機構

バックエンド統括本部 副センター長 他4名

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こしによるものであり、誤りを含む場合があります。

6. 配付資料

・研究施設等廃棄物の埋設事業の物量の見直しについて

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	物量の見直しについてということでメンバーの申請がありましたので、開始いたします。よろしくお願いします。
0:00:08	私原子炉容器のサカモトの方から一言全体概要を説明させていただきます。時当方の建販事業の物量見直しということで、先般人対象物量種々
0:00:22	見直しましたので御説明させていただきたいと思います。またその中のウラン廃棄物関係の物量特に見直しております目それについて説明させていただきたいと思います。
0:00:36	入ってますはい原子力機構の酒井です。本日はお忙しい中時間をとっていただいて、大変ありがとうございます。今サカモトのほうから話もありましたように、
0:00:49	今年度ですね、今年度研究施設と廃棄物を埋設事業の実施計画を見直しております、それについての中で対象物量を見直しておりますので、そのナカタ概要について御説明させていただきます。はい。下のページでございますけれども、
0:01:07	実施計画を見直したんですけれども炉規法で廃止措置実施方針を各事業者が公表することとなりまして、物量の見直し作業があったということと、あと原子力機構ではですねバックエンドロードマップと言って長期の角形の対策に関する計画を策定したということ。
0:01:27	で、それによってですね廃棄物量が更新されましたので、
0:01:33	更新されましたので、減少機構の埋設事業の
0:01:43	もう1ヶ所リスクをサカイですけれども、整合とるためにですね、実施計画を見直したというものです。
0:01:53	内容としてはその物量調査結果の見直しと物量変わりましたので施設規模の見直しとあと埋設事業の総費用と資金計画を見直したんですけれどもます今費用等に関しましてはちょっと規制と関係ないので、
0:02:08	今日物量の話だけを説明させていただきます。
0:02:13	Kなく問題とは思いますが、すみません。
0:02:16	はい。
0:02:18	はい。
0:02:19	はい。まず機構の方はそのバックエンドロードマップ常に何回か機構のほうから御説明させていただいていると思いますけれどもそれに基づいて物量を整理したということです。原子力機構以外につきましてもですね後 25 年平成 25 年にも行っているんですけれども各事業者に対して、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者の確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:37	アンケートを郵送する形で回答いただくということで物量調査をしてございます。対象者がですね、それでな対象者は、炉規法の研究試験研究炉の設置者と核燃料物質の使用者と、
0:02:53	あと、放射性同位元素の廃棄の業者、これにつきましては、RI法のほうはですね基本的にはRI協会が取りまとめて処理してございますので、RI法、
0:03:06	RI協会に調査をするということとあと大きいところではですね
0:03:11	NDFさんとか、あとはQSTさんとかとは直接やりとりして物量を取りまとめてというものでございます。
0:03:21	今うちの対象から外れているというものにつきましてはとは現発電所廃棄物と、あとJNFLさんの再処理や加工施設、また濃縮施設からの廃棄物はうちの対象から外れているというものでございます。対象者がRI協会は1社と考えて146社のうち125社
0:03:41	から回答もいただいているというものでございます。
0:03:44	下のページで物量のそれで変動の結果でございますけれども、これまではピット処分が20万8000本でトレンチ処分が34万8100本ということで、そこに書いてないんですけども、
0:03:58	この物量に対してトレンピット処分の施設は22万本でトレンチ処分は38万本ということで、合計60万本の施設ということで、事業の計画を立てたんですけども、今回はAピット処分が19万9400、
0:04:17	本ということで少し大体同じぐらいなんですけれどもトレンチ処分がですね通算14万本から47万本に12万5000本ぐらい増えたという結果となっております。これに対してですね。ええとピット処分のほうの希望は22万本で替え
0:04:36	余裕を見て22万本ということでトレンチ処分のほうは47万本に対して53万本の規模ということで、事業全体の規模としては75万本というふうな規模で事業計画を見直したというものでございます。下に書いてございますけれども物量増加の原因につきましては、
0:04:55	まずトレンチ処分で機構の物量が増えてございますけれども、まず一つは後であったはいウラン廃棄物のですね、基準について、元はですね10mSv思っに基づいて、
0:05:12	概算で最大10Bq/gという基準をつかって使っていたものを再起最近さつき昨今のはですね、原子力学会等の検討から引用して最大100ベクレル/g見直したというものでこれが大体5万、約5万本ぐらいの企業でございまして、
0:05:32	そその他ですね。
0:05:35	すいません。すいません。南保ちょっと5万本でしたっけ。
0:05:41	正確にはすいません。はい。あとはですね、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者の確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:46	改訂第1 廃棄物ですね処理方法、日抜去対策の合理化ということで処理方法をですね市見直し可処分側で少し負担をすることで処理方法を見直して減容処理を
0:06:04	一部行わないとのすし。
0:06:08	計画に変えましたので、それで物量が増えているという二つの理由があるということでございます。RI協会の物量が増えているんですけども、これはですね、まずピット処分が減ってるんですけどもこれは
0:06:24	もともとAピットにトレンチ排気対応している。
0:06:30	捨てるということが
0:06:33	これまでの規則改正前はですねそれが見えなかったところが今回明確にピットにあるトレンチ排気対応してもいいという規則改正がございましたので、えっピットピットにつけようとしていたものがトレンチに移ったというものでございます。また処理の実績。
0:06:50	等ですね、その減容率を見直したということで物量変動しているというものでございます。
0:06:56	4 ページでございますが物流の内訳でございます。
0:07:13	はい。
0:07:15	原子力をサカイですけども、まず減少施設から発生するアーム取りピット処分のほうでいきますと減少施設から発生する廃棄物が4万本で約20%で再処理施設から発生する廃棄物が8万8000本でこれが約44%となっております。
0:07:34	その他見ていただいてウラン廃棄物はですねあのトレンチ処分か、または取れて人処分は今想定しておらず、取引所分離せられないものは中深度処分かもしくはもしくは地層処分かそれともウランを回収するかと。
0:07:52	というような経営方針でまだちょっと具体的には検討してませんがそういう方向でいきたいということで、物量は0本となっているというものでございます。
0:08:03	はいでその他の廃棄物というのは、減少施設と使用施設が同法の許可を取っている施設や、まず、廃棄物管理施設処理施設なので、° RI廃棄物を受け入れたりしていろんな規制を取り扱っているものと、
0:08:22	というようなところで、その他というふうな区分にさせているというものでございます。これが約25%でございます。
0:08:29	トレンチ処分のほうにつきましては、原子炉廃棄物が16万5000本の約35%で、裏廃棄物が全停15万5000本ということで、全体の33%となっているというものでございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者の確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:48	その他の方は 6 万 7000 本で 14%でRI廃棄物が医療と研究と達してですね約 12%という割合となっているというものでございます。
0:09:00	はい。その下がウラン廃棄物の状況でございますけれども、JAが 6 万 7000 本で加工メーカーさんですね三菱原燃屋の原燃工、
0:09:15	GCを時値、
0:09:19	次、GNF-4 社下 6 万 2700 億でその他大学や民間会社の三菱マテリアルのような会社で 2 万 5600 と合わせて 15 万 5300 本というふうになってございます。
0:09:36	それぞれの濃度を書いてございますけれども、平均が 10Bq以下で/G以下で最大 100Bq/gピックアップというような基準で仕切って
0:09:51	計画しておりますしてそれに合うような形で処理をするということとしてございますので、JAと確保につきましてはこのような結果となっておりまして、大学につきましてはですねその濃度までのアンケートをとってございませんので基準としている中、
0:10:11	ベクレルということで計算してですね、全体で平均 8.2 ベクレルということでございます。
0:10:19	はい。廃棄物の割合が全体に対して 33%でございます。テーマ 53 万本にしますと 29%ということでございます。処分施設衛生等、中の埋設効率でいきますと、
0:10:35	設計と今回物量が増えてますので設計を変更してまして、効率がまあ少し上がっておりますが、全体の施設、
0:10:46	全停 33%であったりするのでこれで処分施設全体の平均放射能濃度麻痺、それぞれの基準が同じとした場合については、全体で 0.89Bq/gということで、
0:11:05	原子力学会でエーって示している考え方の処分施設全体の 1Bqというものは下回っているということで、これ概算ですけれどもそういう結果となっております。
0:11:20	はい、次のページドップラ廃棄物についてはちょっと濃度区分を示してございます。今回大学と民間の物量はちょっと濃度区分ございませんので、ウラン加工メーカーと機構の区分で来これはちょっと廃棄体ではなくてですね。
0:11:38	発生量ということで区分を作らせていただいております。
0:11:43	はい。まず見ていただくとクリアランス 1 ベクレル以下はクリアランス対象でございますけれども、金属以外の廃棄物はまだクリアランスができないということと、あとは金属でも一部は複雑な形状のものについてはクリアランスを想定していない。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者の確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:01	現段階で想定しないということもありましてそれらを含めて、このように一部の廃棄物は、埋設対象ということでございます。今低いほうから1から10Bq10から100ベクレルという濃度が大きくて、日後は少ないというのは来傾向としては家会
0:12:20	計画の変更前等々よということでございます。
0:12:24	7ページはですねこれは普通に全体の衛生上の割合でございますけれども、Aピット処分では機構が88%でコリア12%ということですが、そうですね金属コンクリートでまず答えが一番多くて、時に使った
0:12:42	15%といった形になっておりまして金属とコンクリートは角形大型の1立米。
0:12:48	以上の角型容器2世帯ということで、25%でございまして、その他の廃棄物についてはドラム缶で75%という事割合となっております。
0:12:59	はいトレンチ処分につきましては、金属は角型容器でコンクリートはフレキシブルコンテナでその他の廃棄物は200リッタードラム缶で世帯ということでこのような割合となっているというものでございます。
0:13:13	はい。最後の処分施設の形態でございますけれども、令和等ピット処分施設とトレンチ処分施設はですね金属コンクリートは
0:13:25	安定型処分という閉という従来のトレンチ処分ちょっと規則改正されまして透水性の低いA棟覆土をつけるといったようなこともございますけれども底部等にしゃ水シート等は想定してない形の
0:13:42	処分施設、これ一応安定型と今の段階で呼んでますけれども、それと雑固体等ですね安定5品目以外の廃棄物を捨てるということで、付加機能型ということでこちらは支社水槽産廃処分場になってさ遂行損害多様な処分施設と、
0:14:00	あと、した水を集めてしまうと、放射性廃液になってしまうので水が入らないように、上部に武蔵堆シートを敷いてというような構造の施設を想定してございます。はい、すいませんもつとに前に戻りましてですね、
0:14:18	この安定型と言っている方は金属とコンクリートの55%を想定してございまして、付加機能型と言っているのは、45%のほうを想定しているというふうに考えていただきたいと思えます。
0:14:33	ということで、全体としてはこのような物量になっているということで今日はこれまで物量ご説明してきたのをちょっとこのように健康診査更新しましたということで、報告に来ていただいたということでございます。
0:14:52	説明は以上です。
0:14:56	規制庁マエダです。ありがとうございました。今日きょうの面談の内容としてはちょっと確認ですけども、規制として何らかの対応を要するってというようなものではなくて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者の確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:08	機構としての再整理した結果正常内訳についての情報を提供いただく低層そういう理解でよろしいですね。
0:15:18	技術顧問サカイですけれども基本的にすぐこうというわけではなくて一応うちの方としては、ウラン廃棄物の規制を作って整備してくださいという、これまでお願いして、その物量を以前提示していますので、その物量がもうすでに
0:15:38	こういうふうに変わりましたということで、情報は変わったということと、あともうすでにこの4ページのような発生施設区分はすでにもう規制を整備していただきましたので、でもこれをこのデータも前に進歩お知らせしていたのでこのデータも変わりましたということで、それをお知らせしていると。
0:15:56	ということでございます。はい、規制庁マエダです。わかりましたということであればちょっと少し幾つか質問させていただきますとまずえとトレンチとピット途中進度に分けてますが、区分の仕方というか考え方っていうのは濃度上限値で、
0:16:14	当てるってことなんですかね。そうすると最大10ベクレルから100Bqっていうそこら辺の関係等の同上原子炉関係ってどういうふうな考えでされたんでしょうか。
0:16:29	原子力機構サカイですけれども、まず園部ウラン以外の核種については昔の安全委員会の報告書にありました基準線量相当濃度っていうか価基準線量相当濃度で区切っているというものでございます。
0:16:44	でウランにつきましては、ウランにつきましては、
0:16:51	今回は原子力学会等で示している考え方で平均10Bq最大100ベクレルというウラン濃度で、これ、これは来基準線量相当濃度等別に
0:17:07	ウランもウランの考え裏がウラン廃棄物の考え方としてきているというものでございます。
0:17:24	ですねということへっ洞道上限値ではなくて、10mSvの10倍とか、丸めてない。
0:17:33	数字で切っているという理解ですか。
0:17:38	基本原則というふうな基本的にはそうです。βγPRA以外の核種については、
0:17:47	規制庁マエダですそれ以前いただいたデータもその考え方で区切った数値でその同じ考え方で今回見直した結果、アンケート結果とか前で情報が更新されたっていうそういう理解でいいですか。
0:18:04	です変わってるのは、ウランだけですのではいでも実際、部数もちろん濃度上限値も加味して実際のちょっと申請ではですね。そう切り方は

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者の確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:18:17	向け検討はしますけれども、今はその基準線量相当濃度で切っても評価できてやっていくということです。
0:18:40	成長のアオキですけども。
0:18:43	今のウランの濃度なんですが、
0:18:46	100 が廃棄体の最大
0:18:50	10 が、
0:18:53	廃棄体の平均の
0:18:56	上限
0:18:57	学会標準に
0:19:03	国家標準は処分
0:19:09	学会標準が処分場で平均 1、
0:19:13	というふうにした人は学会のレポートですねは処分場での平均 1 って書いてありますけど、これはどれを指して 1 途中で 100 としてですか。
0:19:24	はい。まずこの 5 ページを見ていただいでほしいんですけども。
0:19:30	まず
0:19:34	その処分場の平均。まず各社の
0:19:39	平均放射能濃度を 10 以下に抑えるということで一番上の表の 8. 六、七. 28.2 ってあるんですけども、全体ウラン廃棄物で平均濃度 8.2 ベクレルということでございます。それに対して、
0:19:54	ウラン廃棄物以外の廃棄物の割合が 0.33 で処分場にの体積に対して等廃棄物が入っている堆積が 0.33 ですので、ここにちょっと小さく書いてございますけど発展に書き入れて酸素が切れて 33 で 0.89、
0:20:14	Bq/g ということで処分場では 1Bq/g 以下ということで、その学会の考え方に合わせてパスということでございます。
0:20:25	規制庁の青木ですが、確認ですけども、一番 5 ページの一番上の表は、廃棄物の濃度
0:20:33	2 番目が、廃棄体の濃度
0:20:36	最後が、
0:20:38	これは処分場平均という理解でいいですか。
0:20:43	原子力機構サカイですけども最初一番は廃棄体の濃度すいませんあの相対の物量と廃棄体の濃度ですはい気体の割合と、
0:20:55	はい埋設施設の体積はですね。
0:20:58	埋設施設の廃棄体と処分施設に対する割合ということです。
0:21:04	規制庁、木ですけどもということは、一番上のこの 10Bq/g 平均 10Bq/g で抑えたというものは、容器等、その中にいる充填材を含めた

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者の確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:17	物の濃度として、
0:21:19	ウラン農道出して株で神戸Bq/gGの分母のほうはそういった
0:21:26	廃棄物以外のものも含めたノードとして書いてるという理解でいいですか。
0:21:33	職をサカイですけれどもはいその通りです。はい。
0:21:37	規制庁アオキですということは廃棄物自体の濃度はもっと高いということではないでしょうか。
0:21:45	そこまで滞納そこまで希釈しているというわけではございませんので、ただもちろん少し高いということです。
0:22:01	核廃棄物に対して、廃棄物と重点割合を決めて計算しているというものです。
0:22:15	もう1点質問なんですけれども、8ページの
0:22:21	右側の絵のもうトレンチ格好付加機能型埋設施設。
0:22:26	いうものがあってですね、その矢羽根の一つ目に雑公開か雑固体の固化体と安定5品目以外の廃棄物って書いてありますが、これは具体的に何なんでしょうか。
0:22:39	的には廃液の固化体や、安定5品目以外というと、廃液の固化体とか、焼却灰の固化体等をさせていただきます。ただ、ここはそういうのも含めて、金属、
0:22:56	コンクリート以外の
0:22:59	あと、いろいろな廃棄物、
0:23:04	金属コンクリート以外の廃棄物も、
0:23:09	含めて、こちらの対象としてございます。なるもともとの考え方としてはそういう廃排液の買ったりとか、焼却灰とか所に埋設するというところだったんですけども、この酵素この構想上は、
0:23:25	今の区分上は金属コンクリート以外のもの、ものにプラスチックやから数的なものとか、金属くずがいろいろまじっているようなものについてもこちらの対象というふうに考えているというものでございます。
0:23:43	機構サカモトです。7、
0:23:45	資料7ページの右下のトレンチの量の区分に書いてますけども、ちょうど30円の真ん中のところにコンクリートと金属で帰って物が8ページの真ん中の
0:24:00	トレンチのところに埋めるという想定をしております、トレンチの中の左の雑固体の排気塔均一均質固化体と可燃物、こちらが8ページでというところの付加機能型の埋設施設に持っていくと。
0:24:17	いう形の区分をしております。
0:24:20	基本的な付加機能型のほうは一応ドラム缶で処分をするということまでは想定して全体計画を作っております。以上です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者の確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:34	規制庁アオキですけども、ちょっと今の御説明をちょっと違う視点で見ると、原子力機構から出てくる廃棄物のほとんどは金属とコンクリートで安定型に埋められるが、機構以外から出てきた 42%ちょっと超えるところは、これは安定型ではなくて、
0:24:54	昨日型に埋めるという予定だということでしょうか。
0:24:58	原子力をサカイですけどもすいません真ん中の円筒外側の円は重なり合っ て関係がないので、そういう意味ではなくて純粹に全体の 29%、そういう意味 です。はい。
0:25:16	規制庁の青木ですけども、この資料を通例通りWEBに載るんですが、そう いう誤解をされてもいいのか悪いのか、もし誤解されることが懸念される場合 の差し替えは別にさせていただいて構わないので、そこ検討ください。
0:25:39	このまま公開実はまだ公開しているの、これ出ていってもいいんですけども、 ちょっとそういうご意見ももちろんあることのところにちょっと工夫させて、差 し替えさせていただきたいと思います。
0:26:58	後ろに、バックエンドロードマップもご説明さして聞いていると思いますけれど も、12 ページ辺りにはAと原子力機構の廃棄物ですけども、ピットとトレ ンチは、これあのRI廃棄物をちょっと除いてる部分があって少し少ないんです けれども、
0:27:16	それ以外にも幼虫深度処分とか地層処分の対象の物量がこういう結果でした ということでございます。
0:27:39	規制庁の小城ですけども、
0:27:42	6 ページのウランの
0:27:45	濃度分布の
0:27:47	結果は、これは学会のレポートでもたまに出てくるんですけども、これ。
0:27:54	若干でこぼこの仕方は学会のレポート等、違うなと思ったんですが、こう変わっ たところはどこなんでしょうか。
0:28:07	これは
0:28:10	数本、
0:28:13	変わってますかね。見栄えまず学会のやつは原燃さんが入っているのって いうのもあって、基本的には発生量等をですねもう一度過去メーカー参考機構 で、
0:28:28	見直しているというところで、基本的な考え方は基本は変わっていないはずで す。はい。
0:28:43	サカモトでちょっと補足いたしますと、例えば除染の考え方とかクリアすどこで ミルクとかそういったことに関して機構も加工メーカーも含めてもう一度

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者の確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:55	見直しまして、若干の多分分布は変わっているかと思えますけども、
0:29:00	結果、
0:29:02	傾向としては多分変わらない形になってるかと思えます。
0:29:06	ちょっとクリアランスの量とか、多分、前回と数値が違うとか、若干方面ますけれども、
0:29:16	規制庁の青木ですけども、1 から 10 の範囲の値は、
0:29:21	国会のレポートが一番原燃 4 件でも入れても 1 万以下になってるんですけど。
0:29:28	これ、
0:29:29	当加工等機構を足して 1 万 5000 円をちょっと超えてるっていうのは、これは別途高いほうから、ここに落ちてきたのか、低いほうからここに上がってきたのか、それはどっちかわかりますか。
0:29:44	今回女性を助勢を考えているので、低い、高いほうから落ちてきている。
0:29:53	と思う。そうした除染をちょっとそうですねその両方が助勢をしないでそのまま残した部分と、
0:30:03	栓をして下げた分布両方の寄与があると思うので、助勢をしないっていうのはちょっと各社の事情っていうのもあるんだと思うんですけども、両方の企業がちょっと今考えられます。
0:36:31	アオキですけども、確認ですが、先ほどの放射能濃度の 100Bq/10Bq 利子ベクレルという
0:36:40	基準を超えたものは、
0:36:43	こういったウラン廃棄物は中深度処分に行くという理解でよろしいでしょうか。
0:36:48	今の段階ではそういうふうに区分しています。はい。ただ実際中深度処分なのか、回収なのか、それとも地層処分なのかはちょっとまだ検討各社検討しないとわからないところがある。
0:37:03	ただ、今回の区分では中深度処分ということで区分しているというものです。
0:37:10	規制庁アオキですけども、今回の区分で中心の処分にされたということですか。6 ページの
0:37:19	分布のどこから先が中心の処分に行くんでしょうか。
0:37:25	はい 100 から 1100 から 1000 のところですね。はい。
0:37:38	規制庁アオキですけども、ということは 10 から 100Bq/g はこれは廃棄体の濃度
0:37:46	区分として、最大でとして見て、フィットかトレンチ化と今の先ほどの表では、フィットはゼロになっていたのでトレンチに
0:37:56	行く予定という計画でよろしいでしょうか。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者の確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:01	機構サカイですけれどもはいその通りです。
0:38:18	その通りです。これは補足ですけれども、1 から 1010 で来てる所最終的な今の目標としては処分場と処分庁で全体で 1 ベクレルになるように、廃棄物を切っていったらどうか。
0:38:35	来ていくにはどうしたらいいかということで、20Bq大間廃棄物の平均にして最大 100Bqぐらいにして、そこでそのレベルで何とか処分場を 1 に、
0:38:50	なるように管理したいという考え方ですので、必ずしも 1010 で切らなきゃいけないというわけではなくないんですけれども、今はそういう考え方で切っているということでこれが 10 が高ければ下げざるを得ないですし、まても基本的には海外にトレンチ処分中見ても 100 ぐらいが大体
0:39:10	上記の上限の濃度をでございますのでそのぐらいが
0:39:16	目安としては妥当なんじゃないかというふうに考えているというものでございます。
0:39:39	はい、以上前です。ではあのありがとうございますか何かありますかはいすいませんけどこれ、今後の
0:39:47	12 月 5 日にあれですよね基礎食うは基本的には制定された改正されたんですよね。その今後の町処分の関係の制度可能スケジュールを。
0:40:02	ちょっと今わかってることなんか移動していただくと規制庁マエダです。今日きょう廃炉等、
0:40:11	に係る事業者との意見交換をやりましたけども、何をやったかということが中心の処分について、今後へと基準、規制基準を整備する方針を策定するにあたって事業者等ですね。電事連ですけども、いろいろ意見聴取しました。
0:40:27	で、今日の意見聴取結果を踏まえて、おそらく多分まだ年明け、
0:40:34	年明けになってると思いますけどもそんなに遅くない時期に規制委員会に中深度処分の規制基準の策定方針を図ることにしていますのは、これあの、ウラン廃棄物と関係ない話なので、ウラン廃棄物の処分とクリアランスも含めてについては、
0:40:52	これ 11 月 6 日の確かあの委員会資料に書いたと思いますけども、論点整理をまずは規制庁のほうでして、それを踏まえて規制委員会の方で検討にするための論点整理をするっていうことにしています。今のところを明確になっている。
0:41:09	スケジュールは、そういった感じです。はい。
0:41:14	論点整理をするに当たってまたこの物量なんかもう、ちょっと今回はうちの

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者の確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:41:21	埋設事業検パイだけの埋設事業の資料ですけれどもまた全体的にこう物量とか性状とか、そういった情報を提供したほうがよりいいのか、その辺はどうすればよろしいでしょうか。
0:41:36	規制庁マエダです。論点整理は、その天然のものをどう扱うべきかとか、あと、道路部との関係をどうするかとかそういった考え方の話なので、物量は直接的には関係ないように思いますので、
0:41:51	論点整理をしてそれを踏まえて考え方を決めて別の考え方に基づいて、基準が決まったら、多分これこういう仕切りじゃなくてもちよっと当物量変わるかもしれませんが、物量を学校だから、こういう基準をっていうことには、
0:42:10	ならないので、基本的には物量の情報がないと、そういった議論ができないっていうことではないと思ってます。ただ、どれぐらいのものがあの濃度のものが存在して想定されているのかっていうのはこれ重要な情報だと思ってますので、こういった
0:42:28	最新の情報みたいなものは我々としては、ハークしておく必要があるかなというふうに思ってます。
0:42:36	25 サカイですけれども、はいありがとうございますそれでいつ、いつでもですねいただければ準備スでも進ま即座にっていうのも難しいので、今ちよっと前にいただければうちの方は対応させていただきたいと思っておりますので、ぜひ
0:42:53	なるべくは速やかに審議をぜひお願いしたいと思うんですけれども、規制庁マエダです。そういった意味で言うと、さっき青木から少しコメント出ましたけれども、廃棄物の濃度でいくとどういうどういう工夫になるのか。
0:43:10	っていうのはちよっと知りたいなと思ってます。
0:43:14	原子力機構サカイそのもとの濃度でっていう話ですかね。
0:43:21	廃棄物の濃度ですね。
0:43:24	遮へい体とか容器とかを入れないのですね。
0:43:29	正確制限事項サカモトです。正確に言いますと例えば発生時点ではモードなのか、例えばいろんな女性処理をしたとか、そういったものをでも変わってきますし、それで喪失的例えば廃棄体として、
0:43:44	例えば固形化するものと固形化しないようなもの、例えばトレンチで、成功金属とかだと所経過説明してるってこと
0:43:55	あとは充填程度というのが出てきます。多分その錯覚段階のほうがあったほうがいいのか、本当はとりあえず出た段階でもよろしいのか。
0:44:14	規制庁アオキですけれども、この所廃棄物と書いてます廃棄体濃度だと思うんですけど。
0:44:20	もうそもそもものが何かがですねちよっとわからないとですね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者の確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:26	いろいろ議論にならないところがあって、今その 10 から 100 です線を切ってるという話がありましたけど、それ以外も、例えば一番ベクレルパーグラムを超えるものって、
0:44:38	これって何ですかって言う
0:44:43	それはRIS濃縮ウランの場合は、
0:44:49	濃度が上がるので、RIS高転濃縮 5%の濃縮とかで計算すると 1 万を超えるかもほとんど
0:44:59	ウランですね、50%を廃棄物に 50%裏が入っているようなやつで、
0:45:06	いや、多分点物っていうか要するになんか凝集沈殿みたいな、
0:45:14	一つだと思うんですけど、スラッジみたいな、
0:45:19	規制庁機ですけど、それは回収できないのかっていうのがまず聞かれそうな話なのと、金属ウランじゃないですけど、その日包装にかなり違う近いわけじゃないですか。
0:45:33	そういったものを
0:45:35	が、
0:45:39	これだと 50 トンぐらいですよ。
0:45:43	ずっとって結構な量ですよ。
0:45:46	そういう比放射能に近いぐらいのものが 50 トンで結構な量だと思うんですけど。
0:45:53	本当にそんなにあるのかなっていうのはちょっと
0:45:56	疑問なんですけど。
0:45:58	減収孔サカイです。
0:46:02	もちろん回収するかどうかもこのこのエリアだけ回収すればいい、この範囲だけのものを回収すればいいのか、もっと大きいSs広い範囲で監修しなきゃいけないのかっていうことをですね、事業者の方もちょっと
0:46:16	決めや挙げてるところがあるので、こういう書き方をしています。だから回収技術の開発するにあたって、どのレベル範囲でやるかっていうのを、事業者の人たちも
0:46:33	考え、考えているので、その子の部分をもうちょっと 100Bq以上の話になると、そういう特に充滿かっていたいのか、それとも回収するのかっていうのはもうちょっとまだ検討をこれからという段階、
0:46:49	考えていただきたいと思います。ただすごく薬価いいなあ焼きついちゃったりしてるっちゃうかちよこちよこ詳しくないんですけどもすごくその解説の 200 回の性状になっているものもあるということですので、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者の確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:05	それなりの技術開発等が必要というふうになんて聞いています。あとすいませんこの表は廃棄体、この日この濃度分布廃棄体ではなくて、廃棄物のはい。濃度分布です。はい。
0:47:23	前のグラフ、平均濃度表のほうは廃棄体でございます。こっちのほうは、廃棄物の濃度分布でこれと同じでございます。
0:47:36	原子力学会の表等をリバイスしたものということでございます。
0:47:52	改めて地区新たすいません、改めてすいません、確認して、またちょっとご連絡したいと思えますけど、これ。
0:48:03	はい。これちょっと改めて確認して御連絡させていただきます。すいません。
0:48:11	規制庁の青木ですけども、
0:48:14	結局、廃棄物化廃棄体化の整理は必要だと思うんですけども、まず考え方として、トレンチするか、中深度もしくは回収するかの線引を考えるとときには、
0:48:30	廃棄体としての濃度で考えるのか廃棄物の濃度として考えるどちらで考えてるんですか。
0:48:37	はい。今の段階では、
0:48:40	窓どちらで考えているというか
0:48:46	そうですね。
0:48:48	処分、処分場の平均が1ベクレルになるっていうことが最終的な目標なので、はい。はい処分場に廃棄体で入れるものについては廃棄体の濃度ですし、廃棄物ているものについては廃棄物の濃度っていう考え方ですので、
0:49:08	処分場に入れて入れる。
0:49:12	団塊入れる形状のものが100ベクレル以下という考え方。
0:49:17	になっています。
0:49:21	機構サカモトです補足いたしますと、
0:49:24	高いところどこまで回収するかっていうのはもう歳出費用等とかの処分とコストとか、多分跨ってしまいますので、そうすると、まず廃棄物としてそれがどこまで可能かと。
0:49:39	いうことを見込み上で、さらに処分がドクター適切かということも多分各社さん、うちも含めてですけれども、考えた上でそこは判断していく形かということになるかと思えます。
0:49:53	多分、現段階つってみて、全体の高いところまで、なかなかどちらがいいのかということも完全決めきれてないというところだと考えております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者の確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。